

第 84 回 明治 8 年以前の松江城古写真と現在

松江市史編纂コラム第 49 回「松江城天守幻視考」（平成 27 年 9 月 8 日）の続編として、古写真に写った松江城の姿は約 150 年の年月を経て現在どのような姿になっているかを、撮影場所の特定とともに紹介する。

明治 8 年（1875）以前の松江城古写真については、前回のコラム後の知見も加わったので、『松江市歴史叢書 9』や『松江市史』「松江城」などでも詳しく紹介した。前回は引用したように、『島根縣史』九「藩政時代下明治維新时期」には、「明治八年五月広島鎮台は工兵大尉齋藤直演を派出し千鳥城の諸建造物並に三ノ丸殿を入札払とし之を取去らしめんとす、（中略）元出雲郡の豪農勝部本右衛門藩士高城権八等と相議り落札高の金を納めて天守閣破壊は辛ふじて免れたるも其他の建造物は日ならずして解き払はれ荒涼たる廢墟を現出せり」と記されている。この記述が正しければ、天守と天守以外の建物が写ることによって明治 8 年 5 月頃以前に撮影されたと判断できる写真は、今日確認できる限りわずか 3 枚である【写真 1～3】。また、【写真 3】が明治 8 年に撮影された後、明治 25 年（1892）8 月頃～明治 27 年（1894）6 月の撮影と推定できる【写真 6】までの約 20 年間、松江城天守が写る写真は今のところ確認されていない。松江城天守と他の建物が写る写真 3 枚は大変貴重である。

ほぼ同じ場所（三之丸正面の番所付近）から、同じようなアングルで撮影されていることは偶然ではなく、明治 8 年以前の松江城（天守をはじめ他の城郭群）を望む重要な視点場だったと考えてもよいだろう。天守正面と三之丸表御門、二之丸の高石垣や建物群を同時に見ることが出来る、いわば松江城の「表」の姿（正面性）だったとも言えるのかもしれない。

【写真 1】は、三之丸正面の番所横（南側）道路辺りから写されたものである。天守をはじめ本丸の武具櫓、多門、高石垣上の二之丸には御書院、南櫓、御広間、中櫓などが見え、三之丸には表御門（長屋門）、多門（長屋）、表御門へ通じる土橋、手前には柵、右端には番所が見える。二之丸の石垣上には瓦塀がまだ残っている。



【写真 1】松江城古写真（三之丸正面付近から撮影）
明治 8 年以前：現存する最も古い松江城天守の写真

【写真 2】は、写真 1 とほぼ同一場所の三之丸正面の番所横（南側）道路辺りから撮影されたもので、二之丸石垣上の瓦塀が取り払われているので、写真 1 より新しい。なお、前回のコラム執筆後、明治 43 年（1910）に【写真 2】を利用した絵葉書が松江市殿町森田写真館から発行さされていたことが判明し【写真 13】、少なくとも【写真 2】は森田禮造が撮影した可能性が考えられるようになった（西島太郎 2019「山陰写真史の黎明」『松江歴史館研究紀要 7』）。



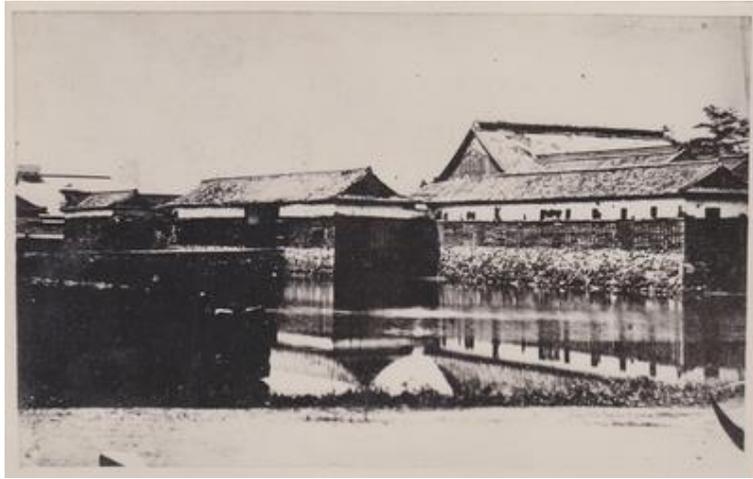
【写真 2】松江城古写真（三之丸正面付近から撮影）
明治 8 年以前：現存する 2 番目に古い松江城天守の写真

【写真3】は、三之丸前番所の北側で表御門へ通じる土橋東端辺りから写されたもので、土橋の一部や付近の柵が写る（番所の北側から撮影しており、写真1、2に写る番所は見られない）。二之丸石垣上の瓦塀は取り払われており、さらに、建物が解体されつつあることが確認でき、写真1、2より新しい。写真1、2と異なり撮影場所を番所の北側に移したのは、表御門の解体が進んでいたとか、番所の傷みが進んでいたとかの撮影上の理由があったのかもしれない。『島根縣史』が「其他の建造物は日ならずして解き払はれ荒涼たる廢墟を現出せり」と記したのと同じように、撮影者は解体されつつある松江城を惜しみ、この一枚を撮影したのだろうか。



【写真3】松江城古写真（三之丸正面付近から撮影）
明治8年：現存する3番目に古い松江城天守の写真

なお、天守は写らないが、【写真4】は大手口辺りの堀沿いから三之丸表御門（長屋門）、多門（長屋）、三之丸御広間、御玄関などを撮影したものである。【写真5】は二之丸の石垣上から撮影したと想定され、三之丸表御門（長屋門）や多門（長屋）、堀の向こうには新御殿（初代島根県庁舎）、三之丸表御門へ通じる土橋、左端には写真1、2に写る番所、番所横（南側）道路の向こうに御作事所（おさくじどころ）など、三之丸の施設や周辺の建物が写っており、写真1～3の撮影場所や周辺の状況も確認できる。



【写真 4】松江城古写真（大手口付近の堀沿いから撮影、三之丸表御門周辺）
明治 3 年以前：表御門右隣の多門の傷み具合から写真 13-2 と同時期の撮影か



【写真 5】松江城古写真（二之丸の南櫓付近から南東方向に撮影）
明治 8 年以前：中央が表御門、その先に内堀、慶応 3 年建築の新御殿が見える



【写真6】松江城古写真（昭和修理時に複写）

明治25年8月頃から明治27年6月10日の間の撮影と推定



では、【写真1～5】の撮影場所はどこだろうか。写真に写った天守や石垣の位置、絵図などから想定できる場所を【図1】で示し、比較のために【写真1～5】と同じようなアングルで現在の様子を撮影した。【写真1・2】→【写真7】、【写真3】→【写真8】、【写真4】→【写真9】、【写真5】→【写真10】

【写真7】写真1・2の撮影場所付近から



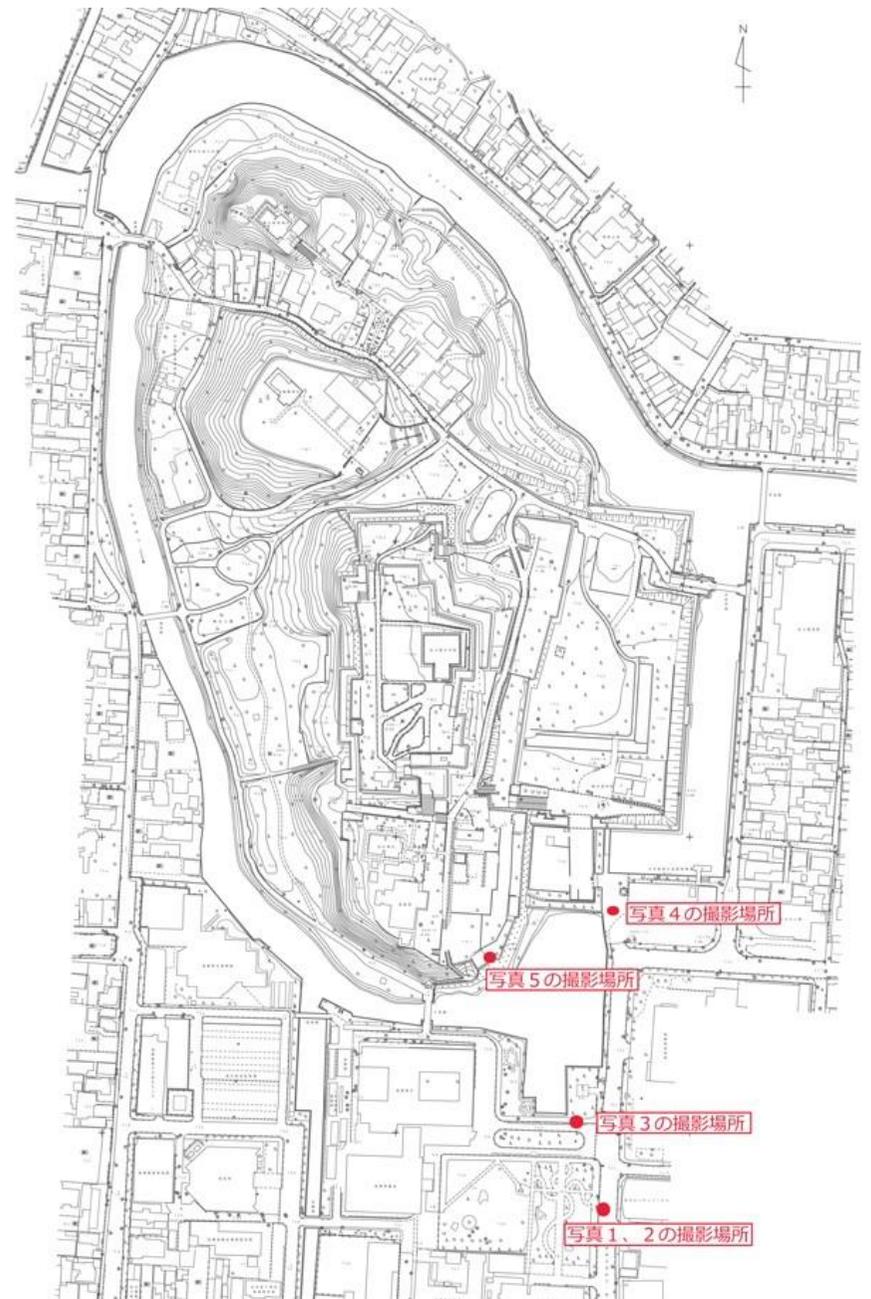
【写真 8】 写真 3 の撮影場所付近から



【写真 9】 写真 4 の撮影場所付近から



【写真10】写真5の撮影場所付近からの撮影



【図1】写真1～5の撮影場所

【写真 1～3】が撮影された場所は、明治 8 年以前には松江城（天守はじめ他の城郭群）を望む最も重要な視点場だったはずだが、残念ながら今では視界に松樹などが生い茂る。かつての建物群も無くなり、三之丸跡は県庁敷地となっており、城郭の威容やかつての姿を感じさせるものはほとんど無い。松江城山内は連日多くの観光客でにぎわい、近年、松江城調査研究室も関わり AR・VR などによる景観復元も進みつつある。そういう折でもあるので、明治 8 年以前の写真に写った松江城の姿は、約 150 年の年月を経て現在どのような姿になっているかを、撮影場所の特定とともに紹介したところである。

（歴史まちづくり部次長／稲田信／2019 年 12 月 15 日記）

【参考】



【写真 11】御本・二・三丸御花畑共略絵図面扣
（部分、1860 年頃、野津敏夫家蔵、『松江市史』「松江城」p.492）



【写真 12】撮影場所周辺の航空写真
（国土地理院、2009 年 5 月 11 日撮影）



【写真 13】松江市殿町森田写真館から明治 43 年に発行された絵葉書
(写真 2 を利用、樋野俊晴家蔵、『松江市史』「松江城」p.760)